

れり、委くは村條に記せり、

高萩 たかはぎ 上に同じ

沼尾和 ぬのわ 今詳ならず、後の考を俟つ、

市川和 いちかわわ 昔時は巨摩郡の郷名なり、又殘簡風土記にも巨摩郡とす、○中

河合和 かわいわ 巨麻郡と並びて、同郷名あり、今も東西河内領と分れて、此の河合郷は東河内領なり、本州三郡の諸河及び山谷の溪流、田間の溝渠、みな此に聚り、駿州の海に注る故に河合の名あり、

巨摩郡十三風土記抄こまぐんじゅうさんふうどきしょ に九つ、殘簡

巨麻 残簡風土記に載たる郷名なり、然るを和名抄に載せざるは、故ありて停廢られしにや、又は脱簡せしならん、○中

逸見和 いつみわ 速見又倍見と作けり、其外の記録には皆逸見とせり、按に、逸見は波置はしおきなり、古事記にいへる、武内宿禰の男波多八代宿禰の裔、波美臣が賜はりし地なるか、波美は反鼻ふんびなり、波と反と通み、○中略し、又逸の字をもハヤと訓り、橘の逸勢と云る類なり、速の字も同じくハヤと訓たり、ハヤはハに約まり、浪速津と言ふが如し、然ば逸見速見共に波美の假字にて、倍見と訓通ふべし、他邦の人ヘンミと呼者あり、反鼻の假字に似たれども、是は一時の音便なり、後世名義の解き難に因て、種々の議論起り、邊字偏字經字を充るあり、或は穗坂庄に引及ぼして、穗見に通はする説あり、皆附會にして信がたし、

龜澤 かめざわ 村名にあり

真衣和 まゐわ 万木乃國用真木野字まみのじとあり、又里名もあり、餘戸郷の北二十餘村みな此郷に屬く、牧原

村の地、其遺名なり、又牧名に出せり、

餘戸和 よしとわ 延喜式に、凡郡不得過千戸、若餘五十戸以上者、分隸比郡云々、餘戸の名、此に出るならん、